

(法第28条第1項関係様式「前事業年度の事業報告書」)

平成25年度事業報告書

平成25年6月1日から平成26年5月31日まで

特定非営利活動法人 竹の学校

1 事業の成果

NPO法人として6年が経過して、会員の高齢化・世代交代等の課題はあるが、放置竹林整備作業、伐採竹の有効活用、タケノコの伝統栽培の継承を通じ、長岡京市の竹林美化活動とその啓発活動に寄与することができた。

今年は、TBSラジオの環境特別番組の取材に協力、環境問題として放置竹林整備をしているボランティア活動も紹介頂けた。

また、林業改良普及双書「竹林整備と竹材・タケノコ利用の進め方」に竹の学校として「放置竹林の整備とタケノコ生産、竹材活用とそれらの普及活動」について投稿し、発刊された。竹との共存について各種団体活動をまとめられており、今後の活動に役立つものと思う。

2 事業の実施に関する事項

【特定非営利活動に係る事業】

① 事業名 放置竹林整備事業

実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者 の範囲・人数	事業費の金額 (概算)
毎水・土曜日 9時～12時	長岡京市長法寺竹林、 野山竹林及び金ヶ原竹林	延べ235名	企業 45名	432千円
事業 内 容	<p>【目的】 放置竹林を整備し、水資源の涵養、竹林の環境美化活動に貢献する。</p>			
	<p>【内容】 現在、放置竹林1.2万㎡を維持管理している。維持は枯れ竹処理と間伐処理のみ実施している。(たけのこ畑4千㎡は除く)</p> <p>1. 長法寺竹林 (B竹林、C竹林) 面積4千㎡ 長法寺竹林は作業を開始してから6年を経過し、現在は定期的に間伐とタケノコの処理を実施している。</p> <p>2. 野山竹林 (面積1.5千㎡) 野山竹林の間伐作業は2年目になり、今年は間伐作業とタケノコ処理を実施した。不要の枯れ竹等の搬出は、地主様のトラックで搬出処理した。竹林は西山ハイキングそばにあり、景観が楽しめるようになった。</p> <p>3. 金ヶ原竹林 (面積1.5千㎡) 金ヶ原竹林は1年目のため、枯れ竹の処理をしてからでないと竹林に入ることができず、倒れている枯れ竹処理と立ち枯れ竹の処理のみを実施した。その枯れ竹を焼却のためレンタカーを借りて長法寺竹林まで運び焼却作業を実施した。隣接の住宅より感謝されている。</p> <p>【活動の成果と課題】 管理竹林整備面積1.2万㎡になり、さらに、こらさ竹林7千㎡を管理する。水資源の涵養にも寄与し、周辺の環境美化ができ、市住民より感謝されている。 現在、作業者の高齢化のため、会員の若返りをして活動の継続化をしていくことが急務である。 企業のボランティアの参加しやすい動機づくりのためボランティア養成講座、タケノコ抜きイベント等を長岡京市役所と考えてゆきたい。</p>			

② 事業名 伐採竹の有効活用

実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲・人数	事業費の金額(概算)
毎水・土曜日 9時～12時	長岡京市長法寺竹林、 野山竹林及び金ヶ原竹林	延べ235名	企業 45名	11千円

事業内容

【目的】

放置竹林の整備に伴う、大量の伐採竹の処理を焼却以外の利用に取り組む。

【内容】

エコ活動支援団体の協力を得て、大量の伐採竹を供給できた。
竹の利用用途拡大検討として、竹炭の粉碎を試行。

①ツバキエマソン殿

野山竹林は地主、企業と竹の学校が協力して、青竹を竹をヨシズとして使用、節電対策用に活用する取り組みを実施し、昨年に引き続き伐採竹(5m)を220本提供した。

伐採処理は竹の学校が担当し、運搬は工場サイドで負担。(7/20)

②立命館中高校殿

長岡京市に移転してくる立命館中高校の新校舎の内装材(天井板)に、長岡京の竹を活用するため、竹の学校に相談があり、対応した。

立命館中高校、鹿島建設、市役所、高野竹工、竹の学校で合意し、長法寺竹林から竹材(2.6m×約φ10cm)290本を提供した。(8/21~9/28)

③オーガニックnico殿

エコグリーンハウスの熱源槽の通気カバーとしての竹スノコ(加工品)を65セット出荷した。

竹の学校としては初めての加工品の供給。伐採竹100本程度活用。
(8/21~3/22)

④竹の利用用途拡大を検討

竹炭を土の改良に利用するため、竹炭を粉碎することを試行。粉碎は竹チップパー、家庭の園芸用粉碎機で5mm程度に粉碎できるテストも実施。

【活動の成果と課題】

竹林内での積み上げや、焼却場へ搬送の必要もなく、焼却せずに大量の伐採竹を消化できた。

ツバキエマソン殿のように、継続して利用いただけるのが理想。

立命館中高校の内装材は、本年9月の開校が楽しみ。長岡京の竹を使っていることで話題となると思う。

竹をチップ化してプラスチック材料として活用することを、協業で検討して行くとともに、竹チップパーの導入も検討してゆく。

③ 事業名 たけのこ伝統栽培の保存継承

実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者 の範囲・人数	事業費の金額 (概算)
毎水・土曜日 9時～12時	長岡京市 長法稲荷神社隣接竹林	約700人	126名 (エコグループ)	108千円
事業 内 容	<p>【目的】 京都式軟化栽培法の継承により、美しい竹林を維持。 エコツアー受け入れによって、竹林を開放し、美化活動への啓発に寄与する。</p> <p>【内容】 一連の作業（新竹の先止め・下草刈・肥料撒き・ワラ敷き・土入れ）を実施してきた。 今年度は天候に恵まれて、例年以上の作柄となった。 収穫したタケノコ（1700kg）は会員・エコツアー体験者等に頒布した。 エコツアーが、環境保全・水資源涵養につながることを「竹林講座」の講義を継続。</p> <p>【活動の成果と課題】 会員・エコツアー体験者に安価でタケノコを頒布することで活動を維持。 会員には昨年より安価でタケノコを頒布出来たが、年々高齢化していく中での作業 （土入れの運搬作業）の負担が大きく例年より約2週間おくれた。対策の一つとして、 土入れ作業を早く出来るように、バックホウを早期に使用する事を検討する。</p>			

④ 事業名 地域活動／竹工芸・竹林のオープン

実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者 の範囲・人数	事業費の金額 (概算)
農閑期の毎土曜日 (6～9、1～3月) 9時～12時	長岡京市 長法寺竹林の作業場	約200人	展示会に来場の 一般の市民 約1000人	34千円
事業 内容	<p>【目的】 竹林の伐採竹の孟宗竹を使った竹行灯等の製作、および作品展示、また、各種団体、個人の見学の受け入れ、竹林作業の体験を受け入れ等で地域活動に貢献して、啓発活動に寄与する。</p> <p>【内容】 主に竹林の農閑期を利用して、定期活動日に会員有志で活動。 本年度の各種イベントへの製作品展示と、見学受け入れ等は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・07/06(土)「TBSラジオ」環境活動取材 ・07/06(土)「屋上緑化団体」訪問 ・07/17(水)「そうめん流し用半割り竹出荷」 ・08/03(土)市長との「まちかどトーク」に参加 ・08/04(日)「こども地域体験塾@やわた」で講演 ・08/24(土)「京都造形芸術大学生の訪問」竹工芸の相談 ・09/11(水)「長岡京市インターンシップ生」見学受入 ・09/28(土)「立命館中高生徒」竹林作業参加・竹材出荷 ・10/09(水)「京都新聞 高野氏」取材で訪問 ・10/12(土)「竹あそび」竹行燈展示、ミニ竹ボウキ製作実演(詳細は別項) ・11/08(金)「長岡中学・総合学習」で講演 ・11/16(土)「環境フェア」竹行燈製作と製作実演 ・11/30(土)「長岡中学野球部」8名土入れ応援 ・02/08(土)「嶺南林業会議所・嶺南林業振興会」見学受入 ・02/25(火)林業改良普及双書「竹林整備と竹材・タケノコ利用の進め方」発行 ～「竹の学校」投稿記事掲載 ・03/12(土)「京都府山城広域振興局副局長・のぞみ工房 施設長」訪問 ～竹チップ研究用資材の事業化の調査 ・03/15(土)「長岡京市森林ボランティア講習」指導応援・昼食・懇談 受入 ・03/27(木)「豊田市亀首町まちづくりの会」見学受入 ・04/27(日)「NTT労連京都メーデーイベント」支援 ～行燈展示、ミニタケボウキ製作実演 ・05/24(土)「NTT労組とのボランティア協業」竹林整備 <p>【活動の成果と課題】 竹行燈作品はレベル・芸術性の評価も高く、展示会で知名度も高くなり、竹の学校の活動と、伐採竹を活用する竹の文化活動の広報に貢献できた。 農閑期と不定期的な活動のため、実質会員以外に竹工芸のみの参加希望者を受け入れていない。竹林整備作業に賛同頂ける希望者ということで現会員のみで活動。</p> <p>長岡京市とのイベントや、インターネットを通じて、見学・調査が増加、広報活動が実ってきている。 ただし、新規加入者がなかったため、広報の重点を会員募集に置くようにしていく。</p>			

⑤ 事業名 地域活動／竹あそびに参加

実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者 の範囲・人数	事業費の金額 (概算)
平成24年10月13日(土) 10時～20時	長岡京市長岡公園	延べ65名	市民 7000名	26千円
事業 内 容	<p>【目的】 地域貢献活動と放置竹林の啓発活動 放置竹林の伐採竹を活用頂ける支援団体に、無償提供して、焼却に頼らないで伐採竹を活用する。</p> <p>【内容】 竹あそびに参加して、竹林に興味を持っていただき啓発活動をして行く。 今回も竹灯籠を450本提供、竹林に置き点灯。竹工芸の作品竹行灯も竹林散策道の両サイドに展示し、新しい試みとして投光器によるライトアップも実施。 今年は公園入口表遊歩道にも竹行燈を展示した。 竹ほうき10本を竹あそびに提供とミニ竹ホウキ作りを実施。</p> <p>【活動の成果と課題】 竹工芸に興味を持っていただくことができ、竹に親しむ機会になった。 今年は公園入口表遊歩道にも竹行燈を展示、最初に竹あかりの雰囲気を感じていただけた。 長岡京市民に竹の学校をアピールできた。 今回竹灯籠の提供が主であったが、竹の有効利用のため、竹ほうき作りをして市民に竹に親しんでいただけた。 竹あそびを遊びだけでなく、参加者、協賛グループで竹林整備ボランティアをしていただける仕掛け作りが必要と思う。 竹の学校展示エリアにボランティア活動への参加募集のパネルを用意したが、成果なし。さらに工夫が必要。</p>			